

# 京都薬科大学での学び

## 教育理念

本学は高度の教育及び学術研究機関として、薬学の教育及び研究を推進することにより、生命の尊厳を基盤として人類の健康と福祉に貢献することを教育理念とする。

## 教育目的

本学における教育は、医療・創薬・生命科学に関する幅広い専門知識に基づいた思考力と行動力、さらには豊かな教養と生命の尊厳を踏まえた高い倫理観を伴う人間性を兼備した薬剤師に必要な能力を身につけ、臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、多様な領域において活躍できる人材を育成することを目的とする。

## ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本学が目指す薬学教育は、Science (科学)、Art (技術)、Humanity (人間性) のバランスが取れ、さらに高度の専門的能力や研究能力を有する薬剤師である「ファーマシスト・サイエンティスト」を育成することである。これによって高度化・多様化が進んだ医療に求められる安全・安心に対応でき、また、製薬産業領域や公衆衛生領域等での新たな活力となる人材を輩出する。

本学のカリキュラムにより、ファーマシスト・サイエンティストとしての能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

## カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」はもとより、それらに本学独自のカリキュラムを加え、次の方針に基づき体系的なカリキュラムを構成することによって「ファーマシスト・サイエンティスト」の育成を行う。

- 1) (6年制薬学の基本)「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」に準拠し、適切に科目を配置することによって、6年制薬学の基本を高効率的に修得させる。
- 2) (自己実現・社会貢献) 本学独自の科目を加えた6年間の体系的なカリキュラムを学ぶことにより、高度な知識、技術、態度を身に付け、医療を通じて人に奉仕し、社会に貢献できる人材を育成する。
- 3) (科学的知識・技術) 1年次から専門科目及び実習の基礎を学び、薬学への興味・関心を高める。専門科目が本格化する2年次からは専門実習も取り入れ、専門知識や技術を涵養する。さらに総合薬学研究において最先端の科学に接することによって、科学及び技術の修得とともに、問題発見・解決能力を向上させる。
- 4) (実践能力) 初年次では主に早期体験学習や基礎演習等により学生が自ら考え、行動する契機を与え、高学年次の専門科目、実務実習及び総合薬学研究の履修によって、実践能力を高める。
- 5) (人間性) 教養教育の充実により社会常識や深い教養を身につけさせる。また、PBL やSGD を取り入れた少人数科目教育(早期体験、基礎演習)等を発端とし、実務実習ならびに総合薬学研究での分野やセンター等での活動を通して、より深く他人を思いやる心、豊かな人間性を涵養し、実践的コミュニケーション能力を醸成する。
- 6) (倫理観) 教養やヒューマニズムに関する科目、医療薬学系科目、実務実習等により、6年間を通して医療に関わる専門家としての自覚と倫理観を身につけさせる。